



六中だより

～自主・勤勉・共生～

7月号

No.2

令和5年7月発行

港区立六本木中学校

校長 松島 智子

1学期の終わりにあたって

校長 松島 智子

7月に入り、まだ梅雨はあけていないのですが、毎日暑い日が続いています。約4か月間の1学期があっという間に過ぎた感じがしています。それだけ、充実していたということになるのでしょうか。1学期は、毎月のように大きな行事がありました。5月には入学してほぼひと月後に、1年生の2泊3日の移動教室が行われました。新型コロナウイルス感染症が5月8日に第5類に移行された後の間もない実施でしたので、バス内や宿舎でもマスクを外す生徒はほとんどいませんでした。お天気も味方してくれてほとんどの行程を制限なく実施し、生徒は大きな声で笑ったり、おしゃべりに花が咲くなど、気持ちの上でとてもリラックスしていて、純粋に楽しんでいる様子が伺えました。



その1週間後の中間考査では、1日で5教科の試験を実施しました。これも1年生にとっては初めての経験ですから、さぞかし面を食らったことでしょう。しかし、この経験があつてこそ、1時間1時間の授業をしっかりと受けること、わからないことをそのままにせず必ず復習をして自分の中に落とし込み、積み重ねていくことの重要性に気が付くことができたのではないのでしょうか。

そして、6月10日の運動会に向けて約2週間の運動会練習が始まりました。新しいクラスになって初めて全員で取り組む共同作業です。それぞれの体力や能力には個人差がある中で、一つの種目にクラス全員が向かい協力し完成させていくという、この期間でなければ学ぶことのできない成長の過程が、ここでは見るすることができます。何よりそれを感じているのは、生徒たち自身ではなかったでしょうか。このようにして先輩から後輩へ受け継がれていくバトン、コロナ禍で閉ざされていた『伝統』の二文字がここでまた復活されたように感じられました。



また、今年度はご家族、ご来賓にも見ていただくようにしたところ、516名の方に来ていただきました。きっとこれまで制限のかかった中、このようにお子さんの姿が見られる日をずっと待ち望んでいたことと思います。今年は初めて「表現（ダンス）」を披露しました。ムカデリレーも「シン・ムカデ」という新たな種目となって実施しました。クラス全員によるリレーやクラス対抗の学年種目、各学年から選抜された男女による「代表者リレー」は生徒も気持ちが高まり最高に盛り上がりました。また、よりよいパフォーマンスをして見ていただくという気運が高まりました。「やはり観客がいるっていいな。応援の声が届いているな。」と感じさせてくれる本当に心の通い合う運動会になったと思います。あの日あの場にいるみんなで作った運動会でした。



(裏面につづく)

このように六本木中学校には、日々の生活、行事を通して、生徒が自分の居場所を再確認でき決して一人ではなく、誰かに支えてもらいながら、成長していくことを実感できるような空気感があります。この6月の内には短期就学の生徒も含めて、9名の生徒が転入してきました。

普通は転入生というと迎える方は興味津々で身構えると思うのですが、六本木中の生徒は「ウェルカム」な温かい雰囲気です。短期就学を終えると、皆さん「本当によくしてくれて楽しい学校生活を送ることができた。また、来たいです。」と言って帰っていきます。

さて、部活動もいよいよ最終局面を迎えています。3年生にとっては、最後の夏の大会です。新型コロナウイルス感染症の影響もあって1、2年の時は決して十分な練習ができたとは言えない状況もありましたが、ここまで気持ちが切れずに持ち続けることができたことは、本当に素晴らしいことです。よく頑張ったと思います。最後の大会で思うような結果が残せなかった部活もありましたが、この後、都大会への駒を進めている部活もあります。ここまで来るには、何もなかったわけではありません。けがをして、思うような練習ができなかった日もありました。ぜひ、自分たちの出せる限りの力の全てを出し切って、最後まであきらめずに悔いの残らない試合をしてほしいと願っています。



ソフトテニス部（女子）



バスケットボール部（女子）



バスケットボール部（男子）

また、3年間のコロナ禍がようやく明け、地域の行事等も戻ってきました。六中は、地域の行事等にも積極的に参加することで、社会に貢献し、ひいては地域の担い手となるべく生徒の育成にも力を入れていきます。1学期は、六本木商店街振興組合主催の森ビルと東京藝術大学の学生とコラボした「六本木アートナイト」に美術部が参加、「麻布地区 社会を明るくする運動」には生徒会本部が出席し、それぞれに六中生の代表として、しっかりと役目を果たしていました。今後も積極的に地域の行事等に参加し、地域に支えられている学校として生徒の生き生きとした活力を存分に発揮していきたいと思えます。学校またはPTAからも行事ごとに呼びかけていきますので、是非、多くの生徒が参加してくれることを期待します。

さて、42日間の長いお休みに入ります。普段、まとまった時間がなかなかとれずやりたいことができないという人は、この機会にぜひじっくり取り組んでみてください。そしてただやるだけではなく、一つの完成形にまとめてみるのもよいでしょう。これからの時代はプレゼンテーションやディベート能力が求められます。学んだことを言語化し、記録することで言語運用能力が鍛えられます。是非、この夏、取り組んでいただきたい勉強の一つです。また、休みを利用して旅行や帰省をしますが、対話や体験を通して新たな発見や気づきを大事にしてほしいと思えます。そして、一回り大きく成長した姿を2学期初めに見せてください。

それでは、健康管理には十分に注意し、有意義な夏休みを送れるように、しっかりと計画を立てて取り組んでいきましょう。